


文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel 0776-82-1141 Fax 0776-82-2261
【斉藤新緑事務所】〒913-0046 福井県坂井市三国町北本町2-1-20 京福三国ビル2F
【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp
【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

ほっとらいん



人に、まちに、いま、
元気の種をまこう。

VOL.62

「かしこさをともなわない勇気はらんぼうであり、勇気をともなわないかしこさはくそなほくそにもなりません！」

世界の歴史には、おろかな連中が勇気を持ち、かしこい人たちが臆病だった時代がいくつもありました。これは正しいことではありませんでした。

勇気のある人たちがかしこく、かしこい人たちが勇気をもったときにはじめていままでとはしばしばまちがって考えられてきましたが、人類の進歩というものが認められるようになるでしょう。

(飛ぶ教室 / エリービ・ケストナー)

七世代後の子孫に幸福をもたらすか

全世界の国々が輸出入の機目的のドルがいかにかに尋常でな貿易決済に要する貨幣は8兆ドルに膨らみ、世界を駆けめぐったドルの総額は300兆ドル。

地球上に存在するあらゆる国の国内総生産(GDP)の合計が30兆ドルであることを考えると、世界を股にかけて、ネットに乗ってかけずり回った投に、東京が良くなれば地方に

上が潤えば、やがて下も潤う、大企業が儲ければ中小企業に、東京が良くなれば地方に

われわれの目をくらます光はわれわれにとっては暗闇である。われわれが目覚める日だけが夜明けを迎えるのだ。

(森の生活 / H.D.ソート)



かつて物質をあふれさせることが幸福だと信じ込んだ。しかし、なぜか物質は幸福な人を増やしてはいない。

縄文人と現代人のどちらが幸福か？と聞かれて、即答できる人は少ないのではないだろうか？縄文時代の土器や漆器を見ると、いかにもノノビとして精神的な豊かさを感じさせる作品が多い。確かに、現代人は化石資源によるいろいろな物質に囲まれ、文明を謳歌しているように見えるが、その実、本当の幸福感には乏しく、逆に健康と環境の悪化で、むしろ不安感の方が増しつつある。

(心に木を育てよう)

金持ちが豊かになれば、貧乏人と波及するトリクルダウン(徐々に流れ落ちる)効果はあったのでしょうか。

富者、強者がさらに富み、貧者、弱者はさらに貧困化が進み、二極化が進みました。

世界を同一基準の経済ルールと価値観のもとにおき、ヒト、モノ、カネの国境を超えた自由なる出入りを促し、それを阻む障壁があれば、猛然と排除・反撃に出る障壁をとり除く。そうすることが世界の富を増やし、世界を幸せにする唯一の方法だとしたグローバリズム。

新自由主義とも呼ばれる、市場競争原理一辺倒で進められた自由化・規制緩和は、一体誰のための何のためのものだったのでしょうか。

そうした政策に対する総括をあやふやにしたまま先対応では、有効な処方箋は書けません。

アメリカインディアンの部族では、寄り合いで決める事を行うときに出た結論について、それは、「この決定は7世代後の子孫に幸福をもたらすか否か？」と吟味したと言われています。

インディアンの教えとは、言葉を換えれば、「現在の世代というものは100年後の将来世代の礎に過ぎない」と言うものです。だからこそ、物事を決めるのに現世代の幸福を犠牲にしても、後の世代の幸福を優先しなければならぬ、と言った結論になるのです。

振り返って、我々の世代は自分の利便を犠牲にしてまで、将来世代の利益を考えているのでしょうか。

「その地位に就くことだけを目標とする人物を、その地位に就けるな」と言います。

会社の社長になるのを人生の目標にしている人物を社長にする、社長に居続けるための保身だけになり、企業の活力は失われます。政治家も議員でいることだけが目的の人物はよろしくありません。

民間の企業なら、経営成績という尺度があるので、効率化も新事業への展開も行わざるを得ません。官僚社会にはそれがありません。ただだ内部の幸せ、官僚自身の幸せを追求する官僚共同体ができてしまっているのです。

これを制御し、国家国民のために働かせるのが政治です。(こんな政治に誰がした / 塚合太)

2月定例会は、年に一度の定期総会と考えるべき

2月下旬から3月中旬にかけての定例会は、次年度当初予算が提案される議会ですが、一般的に言えば、年一回の総会に匹敵するものです。

たとえば、通常の総会の議案となれば、第1号議案は事業報告・年間総括、第2号議案は決算、第3号議案が運動方針、第4号議案が次年度予算、第5号議案が規約改正や新役員選出などとなります。

役所の場合は、決算資料ができるのは、翌年度に入った9月頃になりますから、総括、決算がありません。運動方針案もありません。4号議案、部局別課別の事業予算案(当初予算案)それが運動方針案です。そして、5号議案で必要な条例改正案が提案されるだけです。

提案された議案に対して議論するということになれば、一年間の事業予算案の内容を審査することになるので、妥当かどうかを判断するには、全体が見えていなければなりません。同床異夢ということもあります。

私たちを取り巻いている情勢を的確に分析し、めざすべき方向性を大局的に示し(ビジョンを持つ)、昨年度の総括を踏まえ、今年の方針を示す。そして具体的な事業予算に入る。

こうした営みが、本来あるべき姿だと私は思います。

いきなり、細かい課題ごとの予算議論に入ってしまうと、大胆な発想、構想、あるいは方針転換ができなくなってしまう。木を見て森を見ず、ところか枝を見て木を見ず、ということになりかねません。

「枝を見て木を見ず」ではなく

せん。

現在は、100年に一度の危機、視界不良下であり、霧が晴れたら、何が正しい価値となるのか、この一年が何をめざして一年なのか、めざさなければならぬ方向性を間違えば、見当違いの無駄な予算になる可能性もあります。

その大局観が重要です。そして、それを議論できる年一回の総会としての2月定例会にすべきだと思います。私は、その姿勢を知事に求めてきました。

さて、県議会は今回、通算三本目となる議員立法による政策条例として、産業版の地産地消推進条例ともいえる、中小企業の振興を目的とした中小企業振興条例を制定しました。

また、今議会は、私は会派の役員と結果として、スタートの代表質問とアンカーの予算特別委員会のまとめをすることになり、議会の発言が言いつばなしにならないよう、みんなで取り組み、最終段階で、知事提出議案に対する態度決定についても議論し、集約することができました。その結果、付帯条件を付けることで、全員一致しました。

また、一步、議会の進化につながったものと思います。以下に、議論のポイントと私の主張を記します。

厳しい財政見通し

当初予算(案)は、一般会計が4,808億円余で、今年度当初予算と比較すると約17.1億円、対前年比3.7%が増加しており、平成10年度以来11年ぶりで前年度を上回りました。景気悪化による今年の県税収入は前年度より21.7%落ちっており、歳入の増加に見合う歳入は、借金です。経済縮小は財政に大きな影響を与えており、税収が拡大しない限り、今後の財政見通しは立ちません。

日本の将来世代負担は、他の主要国に比べずぬけて重く、日本の新生児は一度産声をあげる(一度目は呼吸、二度目は負担の重さへの絶望で)と言われるほどだ。これでは、少子化対策に逆行する。

次のステージに向けて明確なビジョンを示し、その目標に向かって前進することを示すことが最も重要であり、それが政治家、リーダーの任務です。知事がビジョンを欠いては、方向性もなければ力もありません。

なぜ、観光営業部か

戦後最大の危機にビジョンを示せ。

世代会計の観点で考えれば、

現在の組織のままで当初予算(案)が編成されています。今回、「観光営業部」の新設を

求める条例改正案が提案されているが、予算承認後に「観光営業部」の名の下に、組織見直しや人事異動や予算を組み直したりすることは、容認できません。突然、思いつきのように部の設置だけを提案するのではなく、観光営業部として、組織編制、予算編成、人員配置、活動方針など全体が示されるべき。

小手先の改革でなく

組織として「観光営業部」を独立させたが、新しい組織には明確な理念と戦略が必要で、農産物販売、企業誘致、ポータルサイトなど営業を必要とするものは、他にも数多くあります。

観光営業部 事務明二示を 付帯決議

予特委が 付帯決議

県会の予算特別委員会 は二〇〇九年度一般会計予算案審議に連し、新設される観光営業部の所管事務や人員配置について、議事に明示することを求める付帯決議案を可決した。

議は約二時間ストップ。理事会や各会派で付帯決議について協議され、委員全員の賛成で決議案が可決された。

委員会は、斉藤委員は「部局改廃は事前協議と合意形成し、新しい部局での予算案を議会で示す必要がある」として、連携を深め、効果のある 事会の開催を要請し、審た。(福井新聞3/14)

この機に組織の見直しをするのであれば、抜本的な見直しを行い、中央官庁の縦割りととは違った地域型横割りに組織にするとか、土木部と農林土木を合わせた県土整備部の設置なども検討すべきと考えますし、地域ごとの総合政策を展開する地域振興局なども検討すべきです。

・地域政策

これから人口が減少し、高齢者が増えてくる。それぞれの地域で何に焦点を当てるのかをはっきりさせないと、予算が分散してしまう。これから医療、年金、介護という高齢化の三大経費の増大が不可避である。

かつては地域政策室があり、地域別の戦略があった。現在は、都市計画課でまちづくりを支援し、市町村課には市町村の振興プロジェクトがあり、ばらばらに実施されており、よからない。

県内各地域の振興についてボリシーを持ち、全体をコーディネートしていくために、地域ごとの振興を所管するセクションが必要だ。

県の役割

「ふるさと集落総合支援事業」は、限界集落対策ということであるが、集落支援員の設置など、本来、集落で決めればよい

よつな、細部にまで県が関与している。

今回の予算全体を見渡すと、予算規模が小さく、本来市・町や地域集落が行うような細かい事業が多い。県として予算枠だけ確保し、市町や地域が実情に見合った創意工夫で事業実施できるようにすべきだ。

事業名と内容を一致せよ

変わったネーミングの事業が沢山あると、新しい事業予算で、花が咲いたようだが、名前が内容と一致しておらず、わかりづらい。結局のところ、名前を変えているだけの事業も見受けられる。

前例踏襲でなく

景気対策の名の下に、目先の痛み止め効果しか発揮できないれば、赤字を増やすだけで、将来の負担、福祉対応など大変なことになります。

従来、縦割り事業別予算の積み上げ、総花的なものから脱却して、次のステップを予測した選択と集中が必要だ。

県民ニーズが多様化・複雑化するときこそ、明確な方針に基づき、量・質の両面から事業の内容を大胆に見直すことが求められます。

部局連携ということ

環境政策、農林水産業政策、エネルギー政策など子供の教育や体験、学校との関連が出てくるものが数多く散見されます。

知事部局の事業で、子供や学校を対象としているものについて、一方で、教育委員会が主体的に教育的見地から積極的に実施しているのか疑問があります。

予算全体の中でも、一つの事業が複数の部局、課で実施されるものがありますが、各々の担当分野、分担された任務しか把握しておらず、総合力を発揮できていない。

高校再編、整備方針を急げ

昨年10月の高校問題協議会の答申に沿って、県立高等学校再編整備計画ができ上がり、第一次実施計画では、少子化の激しい奥越地区全日制の再編と定時制・通信制課程



の見直しを平成21年度から23年度中に実施する。

第2次実施計画では、福井・坂井・嶺南地区全日制の再編と拠点校の配置などを22年から25年に実施し、第3次計画では丹南地区の全日制の再編とが23年から26年実施になっています。

高校再編については、少子化による生徒数の急減などに対応し、経営の効率化を図るといふ大人の都合が優先し、子どもの不都合に目をくぼるようなことのないよう、慎重な対応が必要なことはいまでもありません。

あくまで教育を受ける生徒のためになるものでなければなりません。例えば、耐震診断でEランク

と判定された坂井農業高校の体育館が閉鎖されているのは、高校再編によるものなのか、きちんと説明をしないと、子ども達に疎外感や劣等感を醸成するようないことにもなりかねません。

今予算では、太陽光パネル設置の学校として、春江工業高校が選ばれている。

坂井地区の高校再編という視点から見ると、春工を総合校として整備するのかわたります。

教育委員会は、高校再編とは関係なく、坂井体育館については、壊すか、建てるか、耐震工事するか、今後検討するということだが、高校再編整備方針を早く示さないと、二重投資にもなりかねません。

教育委員会と知事部局との連携が取れていない証左ともいえます。

耐震Eランク 坂井体育館が閉鎖状態

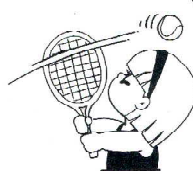
春工には太陽光パネル設置

現状では、景気対策は必要ですが、高齢者に見てみれば

誰のための農業予算なのか

今日の福井県の農業生産高は500億円を切る状況に陥っています。一方、昨年度当初の県と県内9市の農林水産関係予算額の合計は、県の農業生産高を超える約510億円であり、福井県における農林水産関係に携わる自治体職員は、市町を含めると、1000名以上となりま

す。になりかねません。本県農政が目指す目的を明確にし、そのための政策手段を考えることが必要です。前例踏襲に陥り、目的と手段が本末転倒にならぬよう常に体制の見直しを図り、現場の発想を活かし、予算を集中できるよう、徹底した現場主義に改革すべきです。



「ふくいの農業のあり方検討会」の資料は、平成7年度700億円あった農業産出額が、なせ平成18年度495億円まで急激に減少しているのかと、適切に問題提起を行っています。これまでの農政は、一言で言えば、農業者を育て、自立させることができない政策、体制であったといわざるを得ません。それは、現場主義に立った有効な手立てが講じられてこなかったともいえます。

農水省は60歳前年すら変わっていませんが、県庁内で旧来と同じシステムと発想で物事を考えることは、県内に同じような設計図の家を作るようなことになりかねません。

本県農業の中長期計画である、21世紀福井の食料・農業・農村ビジョンの策定以来、8年が経過しました。この計画がありながら本県の農業産出額が減少を続けてきたのは、本県農業の様々な問題をきちんと課題化できなかったことも要因です。

本県の基幹的農業従事者の87%が60歳以上の状況にあって、抜本的な構造改革が求められます。補助事業がある間しか、経営が成り立たないような政策をいくらかつくっても農業者は育ちません。5年後、10年後、20年後に本県の農業は持続し、発展し

ていけるという絵を描ききった上で、戦略をもって、事業化しているのか、その点が最も問われま

私たちは、昨年の2月議会で、都道府県で初となる福井県地産地消の推進に関する条例を議員提案で成立させました。今年度に入り他県でも追従の動きが出るなど、全国に先駆けた条例であると考えています。

本県では、カロリーベースの食料自給率は65%で全国の40%に比べ高いものの、品目別に見ると米以外の自給率は約10%に過ぎず、米以外の園芸や畜産品目の食料自給率の向上が求められます。それには、本格的な農業投資を図る必要があると思われま

また、本県のエコ農業の現状は、県全体の耕地面積に占める割合が4.2%と全国平均の5.4%に比べ低い状況にあります。米以外の園芸や畜産品目の自給率向上やエコ農業の推進についても、取組を強化すべきです。

国の経済対策を解説します

政府の「経済危機対策」(案)が示されました。現在、国会で審議されており、参議院がスムーズに通過すれば、早ければ5月末にも補正予算案が可決され、実行されます。

県ではこの予算枠を受ければ、すぐ対応できるような補正予算の準備を進めています。基本的な考え方と具体策について解説します。

【基本的な考え方】

経済対策の規模と特徴

経済対策の規模については、内需下支えによる「底割れ」の防止、財政支出に関する国際協調の実践、予想される失業率悪化への対処、民需主導経済への円滑な移行などを考慮し、多年度による対応も視野に入れ、補正予算により、国費15.4兆円程度(事業費56.8兆円程度)の対応を行うもの。

今日の経済危機には、「短期的な危機」と構造的な危機があるとしています。

二つの危機の特徴

短期的危機とは

輸出急減とグローバル企業の在庫調整が重なることで、国内生産水準が「つるべ落とし」のように低下し、雇用情勢や、国民全体の消費マインドにも深刻な影響が及んでおり、国際機関も09年のわが国の成長率が主要先進国の1倍以上のマイナス幅になると見込んでいます。

構造的危機とは

バブル崩壊後の日本経済は、世界全体の成長を前提に、輸出主導の「単発エンジン型」の景気回復をしましたが、その前提となる構造が崩れ、世界経済の「大調整」が進まざるを得ない中で、ひとりわが国が、旧来型品目の輸出に依存した成長軌道への復帰を最早期待できません。

【具体的施策】について、以下に抜粋します。

緊急な対策「底割れ回避」

(1) 地域医療・医療新技術 都道府県が地域の医療課題の解決に向けて策定する「地域医療再生計画」に基づいて行う、医療圏単位での医療機能の強化、医師等の確保等の取組を支援

(2) 介護施設や地域介護拠点の整備に対する助成及び融資の3年間拡大

福祉・介護人材の資格取得等

経済や非正規労働者等の「社会的弱者」にシワ寄せされる形で現れ、社会全体の不安心理の高まりが、「底割れ」のリスクをさらに高めるといふこと

構造の大胆な変革が迫られています。

今回の世界の金融・経済危機は、日本経済が潜在的に抱えてきた構造的な脆弱性を、現実の「構造的な危機」として捉える必要があるということです。

構造的な危機とは、経済や非正規労働者等の「社会的弱者」にシワ寄せされる形で現れ、社会全体の不安心理の高まりが、「底割れ」のリスクをさらに高めるといふこと

構造の大胆な変革が迫られています。

今回の世界の金融・経済危機は、日本経済が潜在的に抱えてきた構造的な脆弱性を、現実の「構造的な危機」として捉える必要があるということです。

構造的な危機とは、経済や非正規労働者等の「社会的弱者」にシワ寄せされる形で現れ、社会全体の不安心理の高まりが、「底割れ」のリスクをさらに高めるといふこと

構造の大胆な変革が迫られています。

今回の世界の金融・経済危機は、日本経済が潜在的に抱えてきた構造的な脆弱性を、現実の「構造的な危機」として捉える必要があるということです。

半期の契約率については、特別な事情があるものを除き、入札改革の進展も勘案して、実質的に過去最高水準の前倒しである8割を目指し、最大限努力す

【健康長寿・子育て】

(2) 介護職員の処遇改善、介護施設や地域介護拠点の整備に対する助成及び融資の3年間拡大

福祉・介護人材の資格取得等

「経済危機対策」の規模

(単位:兆円)

	国費	事業費
I. 緊急な対策—「底割れ」の回避	4.9 程度	44.4 程度
1. 雇用対策	1.9 程度	2.5 程度
2. 金融対策	3.0 程度	41.8 程度
II. 成長戦略—未来への投資	6.2 程度	8.8 程度
1. 低炭素革命	1.6 程度	2.2 程度
2. 健康長寿・子育て	2.0 程度	2.8 程度
3. 底力発揮・21世紀型インフラ整備	2.6 程度	3.8 程度
III. 「安心と活力」の実現—政策総動員	4.3 程度	5.0 程度
1. 地域活性化等	0.2 程度	0.4 程度
2. 安全・安心確保等	1.7 程度	2.2 程度
3. 地方公共団体への配慮	2.4 程度	2.4 程度
IV. 税制改正	0.1 程度	0.1 程度
合計	15.4 程度	56.8 程度

このうち、実体経済の悪化が金融の一層の不安定化を招き、それがさらなる実体経済の悪化を招くといった事態、すなわち経済の「底割れ」のリスクが急速に高まりつつあります。

経済の収縮による悪影響が、一部の中小企業、地域

また、金融資本市場では、外国人投資家の比重が高いことから、その動向がこれまで株式市場や不動産市場に大きな影響を及ぼしてきた。持続的な成長を支える基盤となるために、金融

II. 成長戦略—未来への投資

1. 低炭素革命

(1) 太陽光発電

- 「スクール・ニューディール」構想(学校耐震化の早期推進、太陽光パネルをはじめとしたエコ改修、ICT環境の整備等を一体的に実施)のうち、3年間で公立を1.1倍、私立を1.5倍とする学校施設に一体的な実施を拡大実施
- 太陽光発電の導入技術加速
 - ・家庭などで発電した太陽光発電について電力会社が、当初は、現在の2倍程度の価格で買い取る、新たな買取制度を創設(既存の施設とも併せた技術革新・需要拡大により、3~6年後に太陽光発電システムの価格を現在の半額程度に低減)
 - ・公共建築物・公的施設・住宅・在外公館等への太陽光発電の導入促進等
- 離島における新エネルギー導入促進のためのビジョンの策定及び導入支援
- 電気の安定供給を実現する世界最先端の系統制御システム等の開発支援
- 太陽光パネル等の海外への普及促進の重点実施
- エネルギー供給事業者に対する非化石エネルギー導入拡大を義務づける法体系の整備
- 中小企業による太陽光発電設置、電力会社によるメガソーラー設置支援
- 小水力の普及促進

(2) 低燃費車・省エネ製品等

- 環境対応車への買換えなど普及促進(平成21年4月10日に遡及適用)

要件	登録車	軽自動車
車齢13年超車から2010年度燃費基準達成車へ	25万円	12.5万円
- 新車購入補助(経年車の廃車を伴わないもの)

要件	登録車	軽自動車
4年かつ2010年度燃費基準達成率以上	10万円	5万円

(注)上記の補助単価は乗用車の場合(トラック・バス等の重量車にも補助実施)
- 次世代自動車の世界最速普及を図る
- 公用車の環境対応車への買換え促進
- グリーン家電(テレビ・エアコン・冷蔵庫)の普及加速(「エコポイント」の活用等)

エコポイントの付与に関する考え方	エアコン	冷蔵庫	テレビ
要件			
省エネレベル4以上の製品の購入	4%相当	5%相当	5%+5%(地方自治体推進)
さらに、リサイクル(資源)を行う場合	リサイクル料金相当	リサイクル料金相当	リサイクル料金相当(半額)
- グリーン家電の爆発的普及を図る
- 建築物のゼロエミッション化の加速的展開(2030年までに新築公共建築物のゼロエミッション化を目標とした開発等)
 - ・公共建築物や民間ビルのうち、省エネ効果が高いものにつき、省エネ診断及び改修を促進(当面3年間、重点実施)
- 住宅等の省エネ化(エコハウス化)加速(当面3年間で300万戸)、長寿命化等の促進
- 政府の庁舎等の省エネルギー化(省エネ機器の設置等)
- 燃料電池、ヒートポンプの普及促進、CNGスタンドの整備促進

○ 地上デジタル放送への完全移行に向けた対策の強化

・デジタルテレビの普及加速(「エコポイント」制度の活用等)

エコポイントの付与に関する考え方

要件	テレビ
統一省エネラベル4☆以上の製品の購入	5%+5%(地デジ対策)相当
さらに、リサイクル(買換)を伴う場合	リサイクル料金相当(平均3%)

エコ・ポイントとは、温暖化対策型の商品やサービスを購入する際に付与されます。貯まったポイントで、様々な商品・サービスとの交換や、その他のポイントや電子マネーとの交換などができます。

・カントリーエレベーターの再編整備等により、麦、大豆、工サ米の増産に対応
 ・機械導入の支援等による生産性や飼料自給率の向上、産地の活性化
 ・リース方式による施設・機械等の導入、超長期保存技術等

・水田のフル活用による戦略作物等の生産強化
 ・水田フル活用による戦略作物等(米粉用米、飼料用米、麦・大豆等)の作付け支援(輸入小麦500万トンの1割の米粉に置き換わった場合、食料自給率は1.4%向上)
 ・米粉生産者等への金融等の支援

・農山漁村の活性化と森林・林業の再生(森林吸収源対策、花粉発生源対策、間伐材・地域材等の徹底利用等)
 ・国産農林水産物等の海外販路の維持・充実、農商工連携、都市農村交流、学校給食の活用をはじめとする産地地消の促進などによる地域活性化
 ・間伐促進と林内路網の飛躍的整備、地域材の需要拡大と木質バイオマスの徹底活用
 ・花粉発生源対策 3年間で

処理

・国際競争力の高い魅力ある世界の観光地形成(観光圏整備(当面約30地域)、景観形成や歴史まちづくりの加速(景観計画に基づき取組を進める地域を12年度までに500地域へ)、無電柱化の加速、旅館街再生支援等)
 ・2泊3日以上滞在型観光促進のための観光圏整備の実施(当面約30地域の観光圏を支援)
 ・無電柱化の加速
 ・旅館街の面的な再生を図るための観光産業イノベーション促進事業の実施

・市町村等が行う失業者に係る国保及び長寿医療制度の保険料減免の推進を図る。
 研究開発税制の拡充

社会福祉施設等の耐震化、スプリンクラー整備、施設に対する優遇融資拡充等
 生活支援ロボット等の実用化支援
 特別養護老人ホーム等への整備転換等に対する財政支援
 (3)子育て・教育支援
 不況下の子育て世代支援
 ・不況下で、全体の個人所得が減少しつらあることに鑑み、臨時異例の措置である子育て応援特別手当(3歳から5歳年6万円)を、平成21年度に限り、第一子まで拡大して実施

所の耐震整備等
 ・地域の子育て力をはぐくむ取組等の拡充
 ・不妊治療の助成拡充
 女性特有のがん対策
 ひとり親家庭・社会的養護等への支援の拡充
 ・母子家庭等への資格取毎支援、在宅就業支援等・生活保護制度における子どもの健全育成支援
 ・児童養護施設等の生活環境改善、退所児童の生活・就業支援等

内定取消し問題に対応した大学の相談体制の充実等、就職支援の強化
 【農林漁業の底力の発揮】
 農地の集積化、耕作放棄地の解消、農業経営体の育成
 ・11年度を以て農業上重要な地域を中心に概ね10万haの耕作放棄地を解消
 ・荒廃状況や権利関係の調査、農地利用調整の取組を支援
 ・再生作業、土壌改良、営農定着の取組を定額支援、農業経営体の育成(新規就農者確保)

需要に結びついた生産振興
 ・水田のフル活用による戦略作物等の生産強化
 ・水田フル活用による戦略作物等(米粉用米、飼料用米、麦・大豆等)の作付け支援(輸入小麦500万トンの1割の米粉に置き換わった場合、食料自給率は1.4%向上)
 ・米粉生産者等への金融等の支援

農山漁村の自然エネルギーの活用による野菜・果実の安定的・計画的供給や効率的な流通システムの構築
 農山漁村の水産物の活用や資源循環の推進、植物工場等の普及・活用等による新産業創出
 ・3年間で、植物工場の数を現状の50ヶ所から150ヶ所に3倍増、植物工場における野菜の生産コスト3割削減
 ・農林水産物や未利用バイオマスを活用した新産業の育成と新たな雇用の確保



【観光】
 ・国際競争力の高い魅力ある世界の観光地形成(観光圏整備(当面約30地域)、景観形成や歴史まちづくりの加速(景観計画に基づき取組を進める地域を12年度までに500地域へ)、無電柱化の加速、旅館街再生支援等)
 ・2泊3日以上滞在型観光促進のための観光圏整備の実施(当面約30地域の観光圏を支援)
 ・無電柱化の加速
 ・旅館街の面的な再生を図るための観光産業イノベーション促進事業の実施

【地域活性化】
 ・公共事業等の実施に当たって、ダンピング対策の充実等適正価格での契約を推進しつつ、とりわけ地域企業の適切な評価等を推進
 ・公共事業等の契約における最低制限価格の引上げなど地域経済・雇用の下支えにもつながらる入札契約制度の改善の促進
 ・歩行空間・自転車利用環境の整備等
 ・住宅等の省エネ化(エコハウス化)加速(当面3年間で300戸)、長寿命化等の促進
 【社会保障】
 年金記録問題の解決促進に向けた体制の整備
 障害者の自立支援対策の推進(職員の処遇改善への助成、新体系への移行促進等)
 高齢者医療の安定的な運営の確保等
 ・長寿医療制度において、平成20年度に均等割保険料が8.5割軽減であった方で、平成21年度に7割軽減となる方については、平成21年度において、8.5割軽減を継続する。
 ・市町村等が行う失業者に係る国保及び長寿医療制度の保険料減免の推進を図る。

【税制改正】
 住宅取得のための限定的な贈与税の軽減
 ・生前贈与の促進により高齢者の資産を活用した需要の創出を図るため、平成22年末までの期限措置として、直系尊属から居住用家屋の取得に充てるために金銭の贈与を受けた場合には、500万円まで贈与税を課さないこととする。
 中小企業の実務費課税軽減
 ・交際費等の損金不算入制度について、資本金1億円以下の法人に係る定額控除限度額を400万円から600万円に引き上げる。

福井駅前再開発

世界コンペで構想を描け



新緑の眼



県と市で用地取得して
更地にして時間をかけて考えよ



JR福井駅西口中央地区については、昨年、福井市はシティホテルの誘致を断念し、代替案として市民福祉会館の機能移転を市議会に提示しました。しかし、市議会は代替案の是非については結論を先送りし、再開発ビルの床を取得すること、公共公益施設に係る県との協議に入ることについて承認しました。

しかし、この代替案は、あらかじめ県の床取得を見込んだプランとなつていきます。県も県議会も知らないところで策定され公開され、県の床取得が既に決まったような議論が行われるのが不思議でなりません。また、ホテル断念により再開発ビルのコンセプトは変更されており、改めて構想を見直すのが本筋です。「急いで事を仕損じる」といいますが、福井県の玄関口になぜ福祉会館なのでしょう？

福井県の顔

である駅前にあふさわしい良いものを作るのであれば、じっくり考え、構想を練り上げるべきだと考えますし、それが、アオッサ

の二の舞にならないようにと願う県民の素直な気持ちではないでしょうか。知事は、にぎわい創出などの議論が十分ではないとの印象を持っている」とされていいますが、事業内容について十分な議論がなされていない以上、北陸新幹線の延伸を見据え、

経済界等の意見も聞いて腰をすえて取り組むべきです。率直な意見を言えば、県と福井市が用地を取得して、一旦更地にして、時間をかけて考えるべきだと考えます。

世界大恐慌で視界不良の中で突貫工事ではなく、県庁、市役所移転、やるなら一〇〇年に一度の希望のある全体構想を描くべきだと思います。その面、アイデアコンペやデザインコンペを世界規模で実施するくらいのも必要だと思います。

新幹線が来て、玄関口がさびれているのでは話になりません。活性化どころか、恐れられているストロー現象が起り、金沢などへ人が吸い取られてしまいます。

大胆な構想、長期的な視点からのランドデザインをしっかり描いた上で、魅力ある駅前にしなければなりません。百貨店が撤退するニュースが流れています。唯一の百貨店である、だるまや西武だつて、どうなるのかわかりません。



金沢駅東口もてなしドーム

「お役所仕事」で、そそくさと「事務処理」をするような「まちづくり」をしてはなりません。「よりよいもの」をつくるために「だわい」な感動を与えようというものにすべきだと思います。

劣等感も一生の友となる

「比べる」というのは、とても大切な行動だ。敵が来た時、あちらとこちら、どちらへ逃げれば安全か、瞬時に判断できない動物は逃げ遅れて殺される。肉が多くついている塊はどちらか、正しく見分けないと、十分な食料にありつけない。

生きるために必須の、この「比べる」という行動は、やがて文化の基盤になった。個数や大きさの比較が数学を生み、昔の高低の比較が音楽を生み、財産の量の比較が経済を生んだ。人はいつも、物事を比べながら暮らしているのだ。

我々は、自分自身も何かと比較する。自分を兄弟と比較し、近所の友人と比較し、大人になれば、同僚と比較し、上司や先輩、後輩とも比較する。その比較の対象が、ホク口の数や耳の大きさといったつまらないことなら問題はない。

しかし、プロライドの抛り所、自我の土台で優勢がでると、一気に感情が燃え上がる。日々続けてきた仕事



劣等感も、蔓草のように我々の心からみつぎ、胸をしめつけて苦しめるのだ。仏教に「慚」「愧」という、心の状態を表す言葉がある。「良人を敬い、至らぬ自分を反省する」という意味だ。慚愧はとも善いことだとされている。なぜなら、その謙虚さが、自分をいつそう高める活力になるからだ。

の面で「人より劣っている」と感じる時、自分の存在そのものが無意味なように感じられる。

劣等感も、蔓草のように我々の心からみつぎ、胸をしめつけて苦しめるのだ。

だがこれは、実は劣等感を別の角度から見たものにほかならない。「自分は劣っている」という思いはどちらも同じだ。ただ劣等感とは、他人より劣っているから、私には価値がない」と考えるが、慚愧は、劣っているから、その分、離職にならないから、傲慢にならないから、まだまだやれる」と考える。

劣っていることは少しも心配ない。一番悪いのは、傲慢になって地道な努力をやめてしまつことだ。しつこい蔓草に思える劣等感も、実は心の大切な栄養。見方を変えれば、素晴らしい一生の友になるのである。

日々是修行

仏教は、よく医療に例えられる。生きる苦しみという病気を治すための医療である。健康な人もいつかは病気になる。医者の世話になる。それと同じように、今は目の前の幸せを満喫している人も、様々な体験を機縁に「生き死に」の重さを感じるものがあれば、「生きる」というのはつらいことだと思いつつ、仏教の門をくぐるようになるのである。

仏教が医療なら、釈迦はさしずめ病院の院長というところだが、ではその院長の診断結果はどのようなものだろうか。我々の苦しみの原因を、釈迦はどう見立てたのだろうか。仏教は人の心を扱う宗教だから、肉体的な問題にはかかわらない。病氣やけがなどの肉体的苦しみは本物のお医者様に任せて、仏教は「心の苦悩」だけを治療対象とする。そして、その「苦悩」の根本原因を、釈迦は「不合理な生存意欲」にあると考える。

人には、「生きよう」という本能的な生存意欲がある。それは生き物として普通のことだ。しかしその生存意欲が、意識の作用で不合理な姿にねじ曲がる時、「生きる苦しみ」が生み出される。

具体的にいうと、「自分」というものがいてそれを中心として世界があると考える。その自分の外側には、「自分の思いどおりになる世界、自分の所有する世界」というものがあると

思い込む。その「自分」とか「自分の所有物」は、いつまでも永遠に存在すると期待する。そしてそれらに執着することで生み出される、「ずっと今のままでいたい」という生存意欲こそが苦の原因なのである。

「生きよう」という意思そのものは純粋だが、「自分の思いどおりになる世界をひきずりながら生きよう」とすると、無理がかかり苦しみが起こってくる。だから、苦しみの根源は、「自分」とか「自分の所有物」と

愚かさが我欲を生む



佐々木閑 花園学園教授

「日々是修行」が本になりました。ぜひ、お近くの書店でお求め下さい。

日々是修行 現代人のための仏教 100話 (ちくま新書) - 新書 (2009/5/9) 佐々木閑著 新品: ¥ 756



思い込みがあふれる時代に 肉や刺し身を放っておけば、すぐに腐ってしまう。それに比べて生き物というのは不思議なもので、命ある限り、腐ることがない。私など、生まれて50年以上たつたが、まだ身も心も腐っていない(と思う)。放っておけば、たちまちばらばらに崩れてしまふはずの肉体や精神を、特殊な働きでぎゅっと締めあげて70年、80年と持たすのが生命の作用である。

本来なら崩れてしまふものを、なだめてすかして、なんとか持たせていくのだから、そのための仕組みは恐ろしく精密だ。私たちの命は、その精密さのバランスのうえにギリギリで保たれている。

脳は、この危うい状態を維持していくためにいろいろな工夫をする。見えないもの様子を推測したり、未来の出来事を予想したり、あるいは相手の様子で敵か味方を判別したり、これらは皆、できるだけ安全に生きるための、脳の戦略である。脳は、私たちに、実際よりも効率のよい世界を見せることで、私

たちは生存を守っているのだ。しかし時には、そういった作用が働き過ぎて、不幸を呼ぶことがある。自分の都合で人の心を勝手に推測して、あの人は、意地悪なことを考えているに違いないと勘ぐったり、あの人は私にかまってくれないから味方ではない。だから敵だ」と極端に考えたり、現実のほんわかした曖昧な状況を無理やり尖らせることで、愚考がギスギスしてくるのだ。

「このような脳の働きを消し去ることはできない。しかし、脳の見せる世界は、本当の姿とは違つ」ということを知っていると、愚考の幅がぐつと広がると、思い込みの縛りが解けることで、ありもしない苦悩は消えていく。

釈迦は「苦しみの根本原因は、自分の心の不合理な思い込みだ。それを消すことで苦しみも消える」と言ったが、その教えは現代でも通用する。いやそれどころか、脳が様々な情報に洗脳されて、次々に新たな「思い込み」を生み出している現代こそ、その言葉は一層意味深いものとなるのである。

パパの歌

忌野清志郎
いまいわのきよしろう

家のなかでは下駄みたいで
「コロコロしてあべびこ
時タプーこやらかし
新聞みながらビールのむ
だけだよ

昼間のパパはちよちちがっ
昼間のパパは光ってる
昼間のパパはいい汗かいてる
昼間のパパは男だぜ

カツコイー
休みの日には10時半に起きる
シャワーをあびてテレビみて
時々ぶらして散歩して
お腹のぼろり気にしてる
んでませ

働くパパはちよちちがっ
働くパパは光ってる
働くパパはいい汗かいてる
働くパパは男だぜ
↑↑工
そつだぜ

新緑の気まぐれネットワーク

百花繚乱の季節「青くさき新
緑の毒素は世に満てり」と高村
光太郎は詠み、五月の朝の新緑
と薫風は私の生活を豊族にする
と秋原朝太郎が詠んだ新緑の季
節である。

「目には青葉 山ほととぎす
初鰹」「女房を簀に入れても食
べたい初鰹」。

「春は花 夏ほととぎす 秋は月
冬雪さえてすすしかりけり」
(道元禅師)

山があれば
山を観る

雨の日は
雨を聴く

あしたもよろし
ゆうべもよろし
(種田 山頭火)

裸に生まれてきたのに何不足
自然に生かされていることをた
だ喜べお前は前でもちよ
うどいい、そんな気になっ
てくる。

「春は あけぼの。や
うやう白くなりゆく山ぎ
は 少し明りて紫だちた
る雲の細くたなびきたる」

は、清少納言「枕草子」。

とこうで、日本の夜明けを表現
する言葉は沢山
あつて、何がどう違
うのか気になった。
まず、「暁」。夜明け
直前の、まだ暗いこ
ろのこと。



そして、東雲。東の空に、明るさ
が、わずかに動くころ。しだいに、
明けゆく空が「曙」。
やがて、ほのかに明るくなった
空が「朝ぼらけ」。「朝」ですっか
り夜が明け、
日本の政治経済の夜明けはど
の段階か？真夜中！

初春に凜とした深紅の花を咲
かせる木瓜。赤い小さな花がきれ
いだったので二本買って鉢植えに
した「この花なんていう名か知っ
てるか」と娘に聞けば、「うーんと
何だっただけ、えーっと、アホ」
というのでびびりくりして思わず、
「バカ、ボケやる」と口に出た。
木瓜という名を聞いて、アホと

いう意味合いで覚えてしまったの
か。きれいな花を前に口はお上
品に、心は丸く穏や
かになろうと心がけ
ているのに、予期せ
ぬ事が起きると途端
に地が出てしまう。
それにしても、「ア
ホバカボケ」ではあまりに木瓜
に失礼だと思った。

木瓜にまつわる話では、続編が
ある。

木瓜の花を見て、米寿を迎えた
母は、「梅か」と聞くので、「ボケ」
だと言ったら、それでは、向こう
の鉢は梅か？というので、あれ
もボケだと言ったら、「ボケばっ
かり集めて、まだ足らんのか」と
つぶやいていた。

「お父様」というセリフを聞いて、
それだけで、「美しい」と感動
してしまう。

随分昔のことだが、テレビドラ
マで、浅岡ルリ子が山村聡に言っ
たお父様、が今でも印象に残っ
ている。

我が家の娘が帰ってきた開
口一番、「オトン、携帯の充電
器知らん？」
「アノの上にあると思う」
「あ、あった。ナイス！オト
ン」
……………



男は常に男をめぞす

なぜ私は「お父様」で
はなく、「オトン」なの
か、「いつから」「オトン」
になったのか、と思うの
だが、妙に似合っている
ような気もして…。

「県会の斉藤です。」
「……………」
「課長いらっしやいますか」
「えっ？うちの課に「カツヲ」とい
う者はおられませんか」
「えっ？いや、課長をお願いします」
「カチオという者もありません。」
「違つ、課長やっつて！」
「あつ、ちよつとお待ちください。す
いませ〜ん、電話せうやうして回した
らいいんですか」
きつと県庁の新人職員なのだろう。

我が家にも、新社会人がいて、何を
やらかしているのやら心配でならな
いが、今のところ毎朝、ちゃんと起き
て、まじめに出勤しているようだ、先
日は、初月給を
もらいたよう、
私を除いて家族
の楽しい宴が催
されたようだ。



私はといえば、
一人、小夜(ささやかな夜)を過し
ました。夜に吹く風は小夜風、夜に降
る雨は小夜時雨、夜鳴くカラスは小
夜カラス、などと思いつつ、小夜すが
ら(一晩中)、「ほつとらいん62号」を
書いておりました。連休中もずっと
事務所パソコンに向かっていまし
た。

もちろん、誰のせいでもありません



切羽詰らない
とできない自分が
悪いのです。自業
自得です。
ところで、五月
病とは、連休明け
に起こることが多いから名づけられ
たようです。この時期ですと、え
環境になじめなくても、あせること
はありません。

人生にもそこだけ見ると幸福の
場面が、不幸の連続の間に挟まれて
いたり、不幸な場面であっても広く
見渡せば幸福な場面にちりばめられ
ていたりするからです。
すべて物事は空を飛ぶ鳥の目と地
を這う虫の目で、広く深く見つめま
しょう。

「命あつて、迷はぬものは何処に
ある、あれあの通り雲さへ迷ふ」
(鳴栗吉吉)
君よ、朝の来ない夜はない。やま
ない雨はない。(倉島厚)

「無一物中無尽蔵、月有り花有
り楼台有り」
今宵酒あれば今宵呑み、明日愁い
来たらば明日愁つ。

ウグイス鳴く、したたる空色の
窓の下で、
追悼。
どうしたんだい忌野清志郎。
「僕の好きな先生、雨あがりの夜
空に」どの歌詞に迷ったか迷った。
「冥福を祈る。」